

【目次】

1.アーカイブ No.42

連載「日本労働会館物語」第39回

＜惟一館をデザインしたのは誰かーその 1＞

2. [出張講演]

- ① 06/08(月)～09(火) 出張講演・UA ゼンセン神奈川県支部「未来塾」(横浜) 24 名
- ② 06/11(木)～12(金) 出張講演・UA ゼンセン流通部門リーダー研修(大阪) 29 名
- ③ 06/22(月)～24(水) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・流通カレッジ(徳島)34 名

3. [団体見学]

- ① 06/05(金) 団体見学・連合静岡東遠地域協議会 16 名
- ② 06/08(月) 団体見学・UNIAPRO(印刷労連引率) 5 名<安部対応>
- ③ 06/25(木) 団体見学・JAM・BOSCH労働組合 25 名<安部対応>
- ④ 06/26(金) 団体見学・東京都人権啓発センター労働組合 15 名<安部対応>

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1. アーカイブ No.42

連載「日本労働会館物語」第39回 2013.06.13 発行の第 66 号に掲載

＜惟一館をデザインしたのは誰かーその 1＞

本連載「日本労働会館物語」の久しぶりの登場で、テーマは「惟一館をデザインしたのは誰か」。「惟一館の設計はジョサイア・コンドル」というのは周知の事実。しかし最近、惟一館のデザインに関する注目すべき説が登場しています。これはユニテリアン研究者として知られる土屋博政先生(慶応義塾大学名誉教授)が指摘しているもので、土屋先生は「惟一館をデザインしたのはユニテリアン教会のクレイ・マッコレー牧師で、コンドルはそれを建築図面に仕上げた」という注目すべき見解を明らかにしています。

土屋先生は、米国・ハーヴァード大学のアンドーヴァー・ハーヴァード・セオロジカル・セミナリー(神学大学院)図書館に保管されていたクレイ・マッコレー牧師の膨大な書簡を持ち帰り、その中から「惟一館は私自身の企画とデザインによっています」というマッコレー牧師の手紙(1911 年 10 月 26 日付)を発見しています。



従来から唯一館は、和洋折衷の「特異な存在」、「ミョーチクリン」な存在と指摘されていました。

『ジョサイア・コンドル建築図面集Ⅰ』（中央公論美術出版）の「唯一館」の項には、「唯一館は・・・その外観は明らかに日本の伝統的な建築を志向したものであった。しか

し、ホールを中心とする平面形式、暖炉を設けた室内意匠、それに構造や仕上げなど、基本的にはあくまでコンドルの設計になる洋風建築である。和風の外観は、彼の作品の中では特異な存在であるが、それはコンドルだけの意思ではなく、自主性を強調したユニテリアン教そのものの方針に添ったものでもあった」と記述されています。

また、建築史家・建築家として知られる藤森照信氏（工学院大学教授、東京大学名誉教授）は、『鹿鳴館の夢―建築家コンドルと絵師暁英』の中の「コンドル先生の不思議」で、「和洋折衷の試みをコンドルは例外的な一作を除いては生涯していない。その一作というのは明治 27 年の唯一館（ユニテリアン教会）だが、なぜ唐突に試みたかという唯一館の代表者のアーサー・メイ・ナップ氏が熱烈な和洋折衷主義者だったことが大きいと推測される。おそらくナップ氏にすすめられて、ふとやってみようと思ったのであろう。結果はサンザンだった。実現した姿もひどいが、計画案もミョーチクリンで、もしかしたらコンドルは中国と日本の差も分かっていないのではと疑わせるほどで、彼よりもはるかに日本滞在の短かったレスカスやエンデ&ベックマンの和洋折衷西洋館よりもレベルが低いか同程度でしかない。」と酷評しています。

2. [出張講演]

① 06/08(月)～09(火) 出張講演・UA ゼンセン神奈川県支部「未来塾」(横浜) 24 名

昨年に引き続き UA ゼンセン神奈川県支部「伝承未来塾」メンバー24 名が受講。一部は「日本労働運動の 100 年余」。期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説を 70 分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」「社会体制」・社会主義と自由主義「経済体制・共産主義と資本主義」などを学習しました。まとめで鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。そしてこの歴史が現代の労働組合の基礎になっていることを学んだ。

二部は「労働組合の組織、執行部、三役の役割と心構え」90 分。労働組合の目的と役割、組織と機能、民主的労働運動の基本、民主的労働運動と共産主義的労働運動の違い、四つの民主主義を学ぶ。そのうえ、労使対等の原則と信頼

関係の構築への対応、組織のあり方、職場の在り方を具体的な例を持って紹介。体制構築の具体的な方法を学んだ。そして、そこに生まれる真の労使対等な関係づくりと執行する労働組合のあるべき体制を受講した。懇親会でも多くの質問がかわされた。

② 06/11(木)～12(金) 出張講演・UA ゼンセン流通部門リーダー研修(大阪) 29 名

UA ゼンセン・流通部門の流通リーダー研修会(大阪会場)の研修生と教育委員会メンバーの皆さん 29 名が、講義「流通労働運動の歴史と労働組合が果たすべき役割・今後の課題」のテーマで受講した。まずは、友愛会に始まり、戦前・戦後の労働組合の流れを説明。友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性和今後の方向性」「反自民非共産の考え方」「社会体制・社会主義と自由主義」「経済体制・共産主義と資本主義」などを学習しました。すべては、友愛会が組織拡大していく途上、多くを学び、失敗したことが現代の教えとなっている。その流れから組合の存在意義、組織のあり方、役割と責任など組合民主主義を身に着けていく。「流通労働運動の歴史と労働組合がこれから果たすべき役割」について受講しました。

③ 06/22(月)～24(水) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・流通カレッジ(徳島)34 名

UA ゼンセン流通部門第三期 流通カレッジの参加者と教育委員会メンバー、事務局の皆さんが参加。年間 4 講座の最終回でした。テーマは「次代を担う流通労働運動のリーダーに必要なこと」です。内容は、「産別の役割と責任」と「流通部門がやるべきこと」、「政治活動の必要性」に始まり、「友愛会の歴史概観」「民主的労働運動とその思想」「政治・選挙の必要性」「労使関係の考え方(コーポレートガバナンス)」「生産性運動三原則の変遷」「人間の価値、労働の質、人材力の向上によるイノベーションで未来を創る」など幅広く受講した。夜の懇親会では、多くの参加者から質問があり、充実した時間を過ごしました。

3. [団体見学]

① 06/05(金) 団体見学・連合静岡東遠地域協議会 16 名

連合静岡東遠地域協議会の皆さん 16 名が、講義「日本労働運動の 100 年余」を受講、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説を受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性和今後の方向性」「反自民非共産の考え方」「社会体制・社会主義と自由主義」「経済体制・共産主義と資本主義」などを学習しました。まとめて鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。

特に日本初である労働協約締結関連の東京製綱労働組合(100 年前)を熱心に受講し、見学しました。

② 06/08(月) 団体見学・UNIAPRO(印刷労連引率) 5 名<安部対応>

6 月 8 日、ユニ・グローバルユニオン・アジア太平洋地域組織(UNI-APRO)印刷・パッケージ部門の訪日チーム 3 人が来館。UNI 日本加盟組織連絡協議会事務局担当者の通訳を介して、友愛会創立から連合結成に至るまでの常設展示について 1 時間にわたり説明を受けました。メンバーは友愛会が草創期から国際労働運動を視野に活動してきたことなどに、とくに感銘を受けた様子でした。

③ 06/25(木) 団体見学・JAM・BOSCH労働組合 25 名<安部対応>

6 月 25 日、JAM 北関東・ボッシュ労働組合の執行部が友愛労働歴史館を見学しました。安部館員のスライド説明により、友愛会結成から連合に至る 100 年余の労働運動の歴史を学習。その後、常設展示のほか書庫に収められた歴史資料にも熱心に見入っていました。参加者は 25 人。

④ 06/26(金) 団体見学・東京都人権啓発センター労働組合 15 名

6 月 26 日、東京都人権啓発センター労働組合のメンバー 15 人が友愛労働歴史館の常設展示を見学しました。その後、展示室の談話スペースを利用して大会を開催しました。東京都人権啓発センターは東京都の外郭団体であり、友愛会館近くの「東京都人権プラザ」で人権に関する展示・普及啓発活動を行っています。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行: 友愛労働歴史館

責任者: 藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL03-3453-5386

Eメール yuirodorekishikan@rodokaikan.org

HP <http://www.yuirodorekishikan.com>

惟一館から 131 年、友愛から 113 年
